

えびな大也

後援会通信 No.15

えびな大也後援会事務所
〒085-0847 釧路市大町1-1-10大町ビル3階
電話:0154-44-4500 FAX:0154-44-4505
E-mail:ebina@marimo.or.jp
発行/えびな大也後援会事務所



市制施行 100年を むかえて

光産業にも力を入れて参りました。
釧路の経済も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な業種が打撃を受けています。
コロナ禍の閉塞感の中、目の前の課題に全力で取り組み、先人の築き上げた礎をしっかりと受け継いでいきたいと思います。

そして、これからも生産都市を誇りとして、ひがし北海道の経済・文化・物流の中核都市として新たな飛躍をめざして、次の100年に向けて魅力あるまちづくりを進めて参ります。

1922年(大正11年)に北海道区制が廃止され、同年8月1日に、ひがし北海道で唯一、当時の釧路地区に市制が施行されました。
その後、平成17年に釧路市、阿寒町、音別町の新設合併により、現在の釧路市が誕生しました。
釧路の主な産業は水産業と農業、豊富な森林資源を有する林業、石炭、紙パの産業を中心に発展を遂げてきました。しかし、様々な技術革新や環境の変化により、釧路の街も様変わりやせざるを得ない状況となりました。

2002年、太平洋炭鉱の閉山、2021年、日本製紙釧路工場の撤退、水揚げ量日本一を誇った水産業の衰退と厳しい状況の中、新たな取り組みとして広大な面積を誇る釧路湿原国立公園と太古の原生林が残る阿寒摩周国立公園、2つが近距離にあるのは世界的にも珍しいと言われており、国の特別天然記念物であるマリモヤタンチョウが生息する大自然と冷涼な気候を生かした観光産業にも力を入れて参りました。

釧路の経済も、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、様々な業種が打撃を受けています。

コロナ禍の閉塞感の中、目の前の課題に全力で取り組み、先人の築き上げた礎をしっかりと受け継いでいきたいと思います。

そして、これからも生産都市を誇りとして、ひがし北海道の経済・文化・物流の中核都市として新たな飛躍をめざして、次の100年に向けて魅力あるまちづくりを進めて参ります。

市立釧路総合病院 28年度開院へ

市立釧路総合病院の新棟建設について、5月時点の配置計画が公表されました。新棟は地上12階、地下1階建ての鉄骨造り。床面積が3万9,110平方メートル。このほか、地上1階、地下1階建てのリハビリ棟や増築する入院棟をつなぐため、地上4階建ての接続棟を新築します。

新棟1階には、高度救命医療に対応するため、救命救急センターを中心に放射線診断、内視鏡部門を配置します。患者の利便性に配慮し、入退院手続等をワンストップで行う患者総合支援センターを配置します。

2~3階には、外来を配置。外来中央にスタッフ作業エリアと処置室一体とした共用処置ゾーンを計画し、スタッフの連携強化と動線短縮を実現します。

4階には、手術室と集中治療室(ICU)を隣接配置し、術後患者の負担軽減を図ります。また、高度な手術に対応するためのハイブリット手術室、バイオクリーンルームの配置も行います。

5階には、救命救急センターから救命救急病棟へエレベーターで直接搬送可能となるよう計画をしています。

6階には、結核病棟をはじめ感染症棟としても転用できる一般病棟とします。

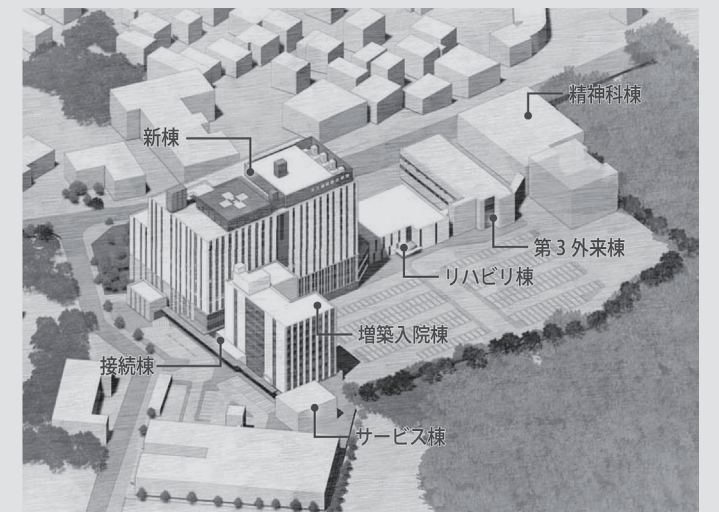
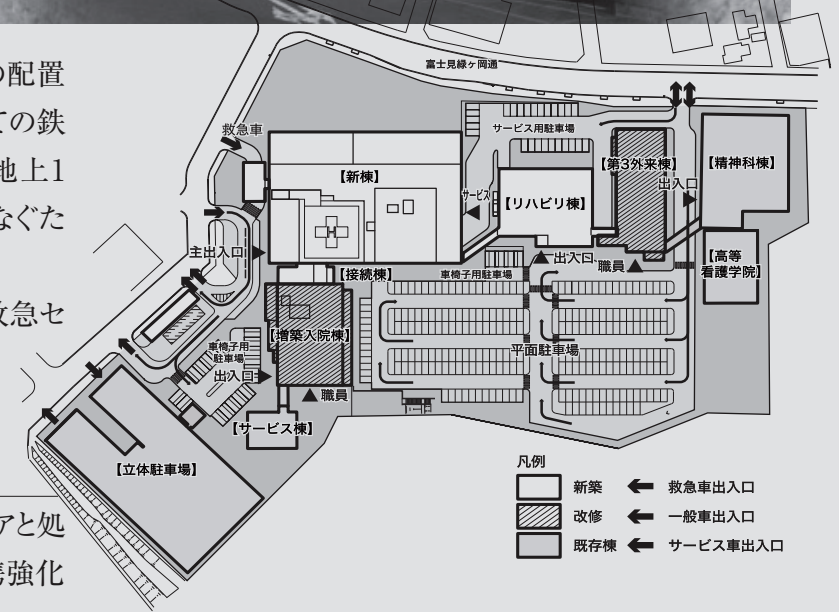
7階には、地域周産期母子病棟を配備し、機能の充実化を図って参ります。

8~11階には、高度急性期病院として、患者ケアを重点とした一般病棟。

12階には、ヘリポートを設置。地下1階には、薬剤部門、給食部門などを配置します。

●約500台分の駐車スペースを確保

立体駐車場はそのままに、既存の入院棟と中央診療棟解体後に整備することで、平面駐車場を含め、約500台を確保します。立体駐車場と平面駐車場の2カ所になるため、利用者に分かりやすい案内システム等を活用し、スムーズな誘導を行うようにします。最新の医療体制は市民にとっても期待するところであり、28年度の開院が待たれるところでもあります。



南東側の鳥瞰イメージパース

★ 釧路市

— City of Kushiro —

市制100年

未来に向けて、 新たなスタート

釧路市は、1922年(大正11年)の市制施行から100年を迎えました。

当時の人口は4万2千人。三大基幹産業である漁業、石炭、紙・パルプに支えられ、81年には釧路市(合併前)の人口は21万8千人とピークを迎えました。その後、水揚げ量の減少、炭鉱の閉山、製紙工場の縮小、撤退などが影響し、人口が減少していきます。22年7月末現在は16万1527人となっております。

道東の都をふりかえる

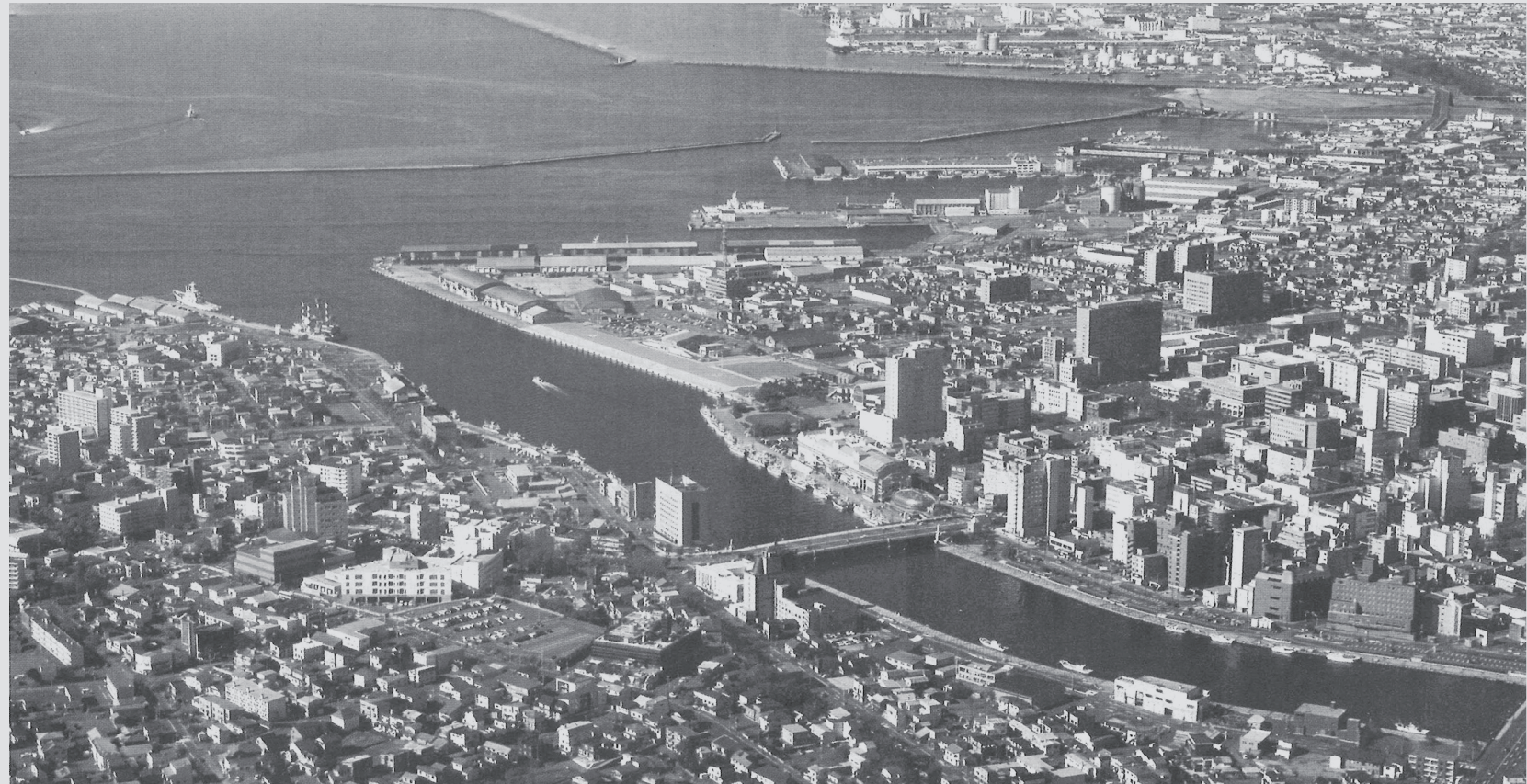
釧路は世界の三大漁場ともいわれる豊かな海を擁していることから北海道内に限らず、全国的に有数の漁業基地として水揚げ日本一を誇っていました。

捕鯨に関しては、52年から10年間で、日本一の捕鯨頭数を記録する屈指の捕鯨基地でもありました。水揚げ量のピークは87年の133万トン。

しかし、200カイリ規制、北洋転換底引き網漁船の撤退、資源の減少などがあり、現在は水揚げ量はピーク時の8割減、水揚げ額は9割減までになっています。これから益々、厳しくなっていく中、前浜資源を上手に利用する事が問われています。

採炭は、1919年(大正8年)に北海炭鉱鉄道(雄別炭鉱)、20年(大正9年)に太平洋炭鉱といった大手炭鉱が開業します。

太平洋炭鉱の最盛期(1977年度)には、年間261万トンもの石炭を生産しました。しかし、国のエネルギー政策の転換で、70年以降、道内の大手炭鉱が次々と閉山に追い込ま



れ、2002年には太平洋炭鉱が閉山します。石炭生産技術は、地元企業出資の新会社「釧路コールマイン(株)」に引き継がれます。

紙・パルプは、1949年、十條製紙釧路工場が誕生。93年に十條製紙が山陽国策パルプを合併し、社名を日本製紙に変更します。

2003年には、日本製紙は大昭和製紙も合併、規模を拡大していきます。

本州製紙も、1996年に王子製紙と合併し王子製紙グループとなります。

かつては重要な基幹産業の一つであった紙パルプもIT機器の発達により印刷需要が減少する中、経営環境は悪化の一途をたどり、2009年、王子製紙が生産設備の一部停止を決め、12年には段ボール原紙の生産のみを行っています。

21年9月には、日本製紙釧路工場が撤退。10以降は、発電事業を運営の柱としてスタートしています。

これからの100年を見据えて

釧路市は、北海道の東部、太平洋岸に位置し「釧路湿原」「阿寒摩周」二つの国立公園をはじめとする雄大な自然に恵まれています。



市制施行100年の歴史をふまえ、これから最も力を入れたい人口減対策と経済対策に重点をおき、地域が持つ素晴らしい資源により高い付加価値をつけて、新たな基幹産業を育てていく…。

熱い思いが未来に向けて歩いていく力となります。

愛国浄水場 新設について



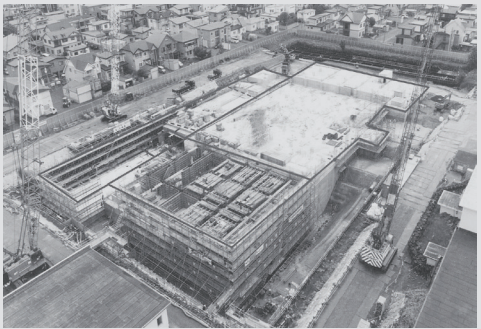
愛国浄水場は、昭和34年に供用開始しました。古い耐震基準で設計されていることから、平成17年、18年度に耐震調査を実施。調査の結果、耐震強度不足による大規模な補強が必要であると判定されました。改めて将来の方向性を見極めるために、平成19年度に愛国浄水場更新基本構想を策定しました。

●膜ろ過方式の決定

原水である新釧路川の水質への適合性と薬品注入量を確認するため、実証実験を行った結果を基に、膜ろ過方式と現行の急速ろ過方式を安全性、安定性、経済性などについて比較検討し、膜ろ過方式により愛国浄水場を新設する運びとなりました。

●令和7年度、供用開始を予定

工事は二期に分けて行います。第一期工事は、配水施設の建設を目的とし、平成23年度から着工。浄水場で作られた水を貯めておく「配水池」を2池、その水を皆さんの家庭に送り出すための「送配水ポンプ場」が平成29年3月に完成、供用を開始しております。現在、第二期工事に入っており、浄水場の建設を目的とし、平成29年度から着工。令和7年度の供用開始を予定しております。

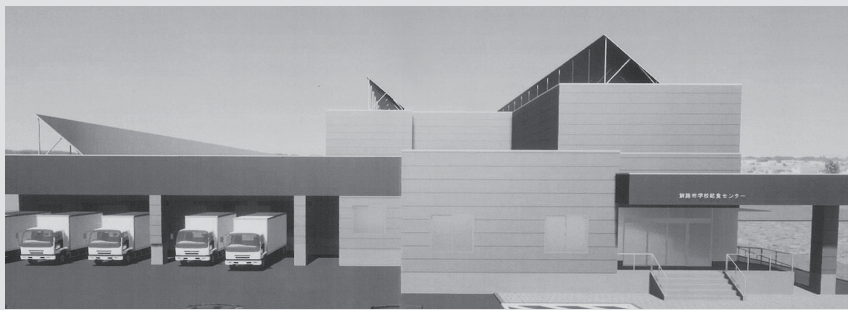
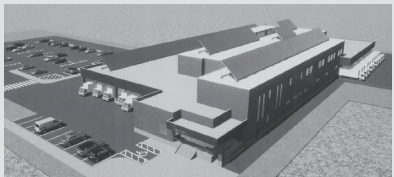


(新愛国浄水場の住所 釧路市愛国西4丁目9-25)

新給食センター建設



釧路市教育委員会は、学校給食センターを現施設(釧路市貝塚3)の南側に新たに建設します。学校給食衛生管理基準のもと、給食供給施設、機能を高めていきます。完成は、25年度春の予定です。



※完成予想図